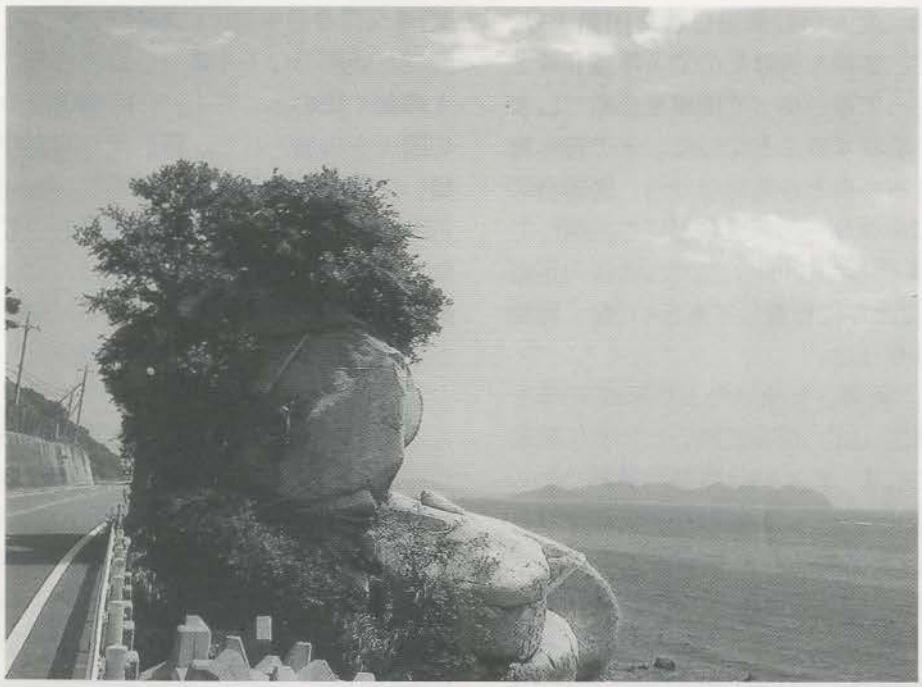
光市医師会報

平成11年 7 月号

No. 321



奇　岩　(Exit of Murozumi)

光市医師会

〈会員広場〉

胃癌を手術して

福本壽雄

平成7年2月9日、徳山中央病院に於て右肺上葉の扁平上皮癌を手術して頂き、丁度1ヶ月後に退院してすぐに診療を開始した。しかし、食欲もあり元気もあるのだが、何となく体がだるく横になるとすぐにうとうとと眠くなる状態が1年位続いた。そのような時に老人保健施設しまた川苑より、施設長にと依頼を受けたので、平成8年3月末をもって思い切って開業を止め、しまた川苑に勤務することにした。その後も施設長の仕事も何とか務めながら、医師会の行事やロータリーの例会などにも出席しており、酒も少しづつ嗜んでいた。術後の定期検診も、夏と冬に検査してもらい、全く異常を認めなかった。

しかし、術後3年余りたった平成10年5月の連休に、山口、博多に旅行した折に風邪をひいてしまった。熱は平熱か微熱であったが、前から出ていた痰が切れにくくなった。風邪は薬をのんで1ヶ月位で治ったが、食欲が減少して54kgあった体重が51kgになってしまった。しかし胃腸症状の胃部不快感、吐気、胃痛、下痢などの症状は全くなかった。かぜによる肺炎や肺癌の再発を心配して、6月1日に光市立病院で胸部X線撮影したが、肺野には全く異常を認めなかった。

そして年2回の定期検診の目的で平成10年7月9日午前中に腹部エコーを、午後胸部と腹部のCTを実施したところ、**写真1の如く**胃の近くに10×10㎜のリンパ節の腫大を指摘された。胃に何か病変が？の疑いで胃の検査をすすめられた。翌7月10日午前8時半より胃のX線透視をして頂いた。そしたら胃の幽門部に30×30㎜の陰影欠損を明らかに認めた。そのX線フイルムをみて私もびっくりし、翌週7月13日(月)に胃のファイバースコープをして頂いた。胃のファイバーは気管支ファイバーに比べて、さほど苦しくはなかったが、食道に管を通すのでやはり吐気、空ゲップが出て少し苦しかった。しかしそれよりも、胃のファイバーを実施中に、**写真2の如く**目の前のモニターに胃の壁がうつり、幽門部の真

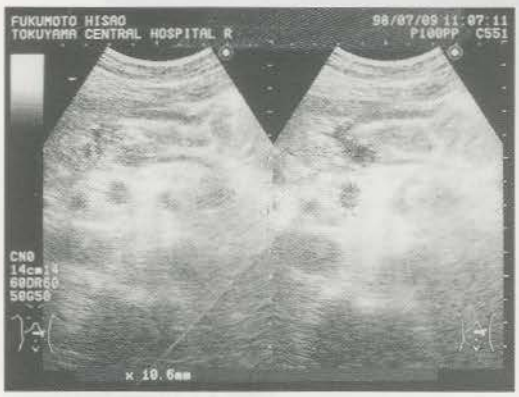


写真1

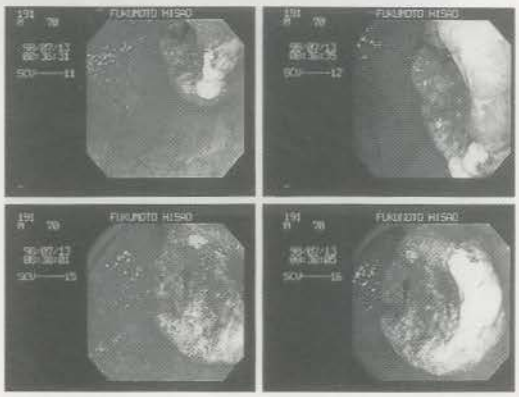


写真2

赤な胃壁の面に火山の噴火口のような癌らしい潰瘍像が明瞭に映っているではないか。これを見て私は「大きな腫瘍ですね」と言ったら、片山先生は「カメラが腫瘍に近いから大きく見えるのですよ」と言われたが、私としたら胃のX線写真をみているので、私に対する慰めとしか聞えなかった。検査が済み診察室に呼ばれたが、私の方から「すぐに手術して下さい」とお願いしました。片山先生も「他に転移もないようだし、手術も簡単であり、予後も良いでしょう」と言われた。そして翌日外科部長宮下先生とお会いし、すぐに7月24日入院、7月27日胃幽門側切除術することに決めて頂きました。

「以前に、いつ胃の検査をされましたか」と片山先生に聞かれ、考えてみると昭和47年に急性膵炎を起し、膵臓と胃の関連をみるために、昭和53年と54年に下松記念病院で荻野先生に検査して頂きました。その後は全く胃の検査をしておらず、丁度19年余りもしていないことが判り、背すじが寒くなる思いでした。私の胃癌の状態をみると、ここ1～2ヶ月位で発生したものではなく、少くとも6ヶ月、長くて1～2年前から出来ていたものであろうと思われる。その為に毎日書いている日記を調べてみたが、胃癌の初発症状らしいものは全く見当らなかった。ですから全く無症状の胃癌発生とみてよいと思います。従って私の場合、片山先生が腹部エコーでリンパ節腫大を見付けて頂いたことに心から感謝し、私自身ほんとうに幸運であったと思っています。今考えてみると、胃癌を発見してすぐに手術をして頂こうと決断したのは、

①20年間も胃の検査をしていないのに、発見された胃癌が他に転移もなく、割合早期の癌であったこと。

②3年前に手術した扁平上皮癌の肺癌とは、異った腺癌の胃癌であったこと。従って肺癌の転移ではなかったこと。

③主治医の放射線科の片山先生と外科の宮下先生のお二人が共に「早期に近い癌だから簡単な手術で済みますよ」「前回の肺癌の手術より簡単ですよ」と同じように自信をもって言われたこと。

④前回の肺癌の場合と違い、胃癌の場合、胃のファイバースコープにより癌の腫瘍をカラーで直接に見せつけられたこと。

⑤もう少し長生きして、お年寄のお世話をして上げたいことと、変化の多いこの世の中の変化をこの目で見届けたいと思ったこと。

などの気持からであった。

〔平成10年7月27日 胃切除手術とその経過〕

午前8時半、手術準備室に行き宮内麻酔科部長と少し話をして麻酔をかけられたので、その後のことは全く覚えていない。

午前9時、手術開始。手術方法は胃の幽門部側を2／3位切除し、残った噴門部側と十二指腸の切断部を縫い合せるビルロートⅠ型法で行った由です。そしてその折胃の周囲のリンパ節を全部切除摘出し組織検査を実施した。

午前11時頃には手術が終り、12時半には自分の病室に帰ったが、意識がもうろうとして全く覚えていないが痛みは訴えていたようです。翌7月28日には意識が戻ったようであるが、一日中うつらうつらしており、とぎれとぎれに夢をみたように思う。夜もうつらうつらで10分毎位に目が覚めるが又すぐ寝ているようだった。

29日（術後3日目）と30日も絶食であっ

たがゲップや胸やけが強く、胃液や胆汁が上ってきた。夜もうつらうつらであり夢をみた。夢は私が町で酒を飲みすぎて親父に顔を殴られた夢だった。殴られるのが嬉しく自分から顔を出したことを覚えている。術後5日目となり吐気、ゲップが大分少くなり夜もよく寝られた。

8月1日（術後6日目）の朝、はじめて水とポカリスエットを少し飲んでみたが、とてもおいしかった。7日目より重湯、8日目より3分粥、10日目より5分粥、14日目より全粥となった。

8月3日（術後7日目）に導尿カテーテルも胃のドレーンも抜管し、胃手術部の抜糸も一度にやってもらった。それで大変楽になったが、足が弱っておりトイレ迄歩くのが大変であった。食欲はあるのだが、少ししか食べられない。無理に食べると胸やけがして、ゲップが上ってくる。8月8日、洗面所で鏡を見たら丸い顔が細長くなっていた。

8月10日（術後14日目）胃のX線透視をしたところ、胃が半分以下になっており、これでは食物が沢山食べられず、胸やけやゲップが上るのは当然のような気がした。経過が良いので当日退院許可が出て8月13日に退院した。

胃ファイバーによる生検と胃切除部分の組織検査の結果

胃のファイバースコープによる生検では、グループ5の腺癌と確定診断された。

切除した胃は**写真3**のように、幽門部の近くに3×3㎝のボールマンⅡ型の潰瘍型腫瘍であった。又切除胃の病理組織学的診断は、表1の如くで管状腺癌で固有筋層迄達していたそうです。従って進行癌ではあるが、あくまで胃内に留まっており、漿膜面にも全く露出しておりません。胃壁内、リンパ管、静脈浸襲は見られるものの、リンパ節転移は全く見られないとのことでした。依って進行癌ではあるが、予後は良いとのことでした。

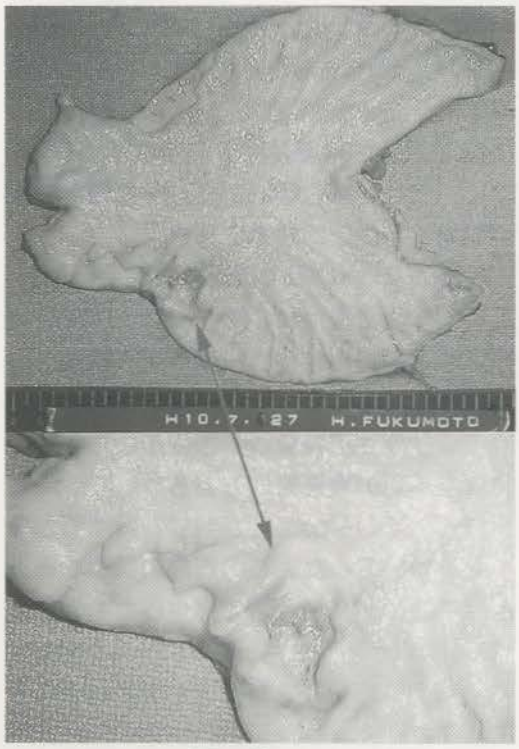


写真 3

病理組織総合診断

1. 組織型	管状腺癌（中分化型）		
2. 深達度	固有筋層	mp	
3. リンパ管侵襲	中等度	1y2	
4. 静脈侵襲	軽度	V1	
5. 断端浸潤	なし	Ow（−）	Aw（−）
6. 周囲組織に対する浸潤増殖様式	中等度	INF	β

7．間質量　少～中等量　med～int
8．外リンパ節転移　なし

〔胃癌手術後の自覚症状〕

退院して2週間は自宅で食餌療養に専念したが、9月1日より出勤した。

①午前中仕事をすると、午後になり体がだるくなり眠たくなる。
②お腹が空くとふらふらする。（低血糖？）
③お腹が空き過ぎると、反って食欲がなくなる。（ストレス？）
④しかし、食べるとすぐにお腹がふくれる。でも1～2時間ですぐに空腹になる。
⑤冷たい物を飲食すると、時々ではあるが不消化便、下痢便になる。

〔手術後6ヶ月目頃からの自覚症状〕

①食事は普通食で、半分から2／3位食べられるようになった。
②食事をしてから2～3時間しないと、空腹にならなくなった。
③しかし、急いで食べるとすぐに胸につかえて、胸やけがする。
④冷たい物を飲むと、下痢しやすいが以前よりは便がやや固形化している。
⑤手術後体重が42kgとなったが、その後全く増加もしないし、減少もしない。
⑥午前中仕事をすると、午後はやはり体がだるくなり眠たくなる。しかし1時間位昼寝すると又すぐに元気になる。

〔肺癌手術と胃癌手術との比較〕

①発見時の症状は、胃癌の時は無自覚であったが、肺癌の時は癌の部位に痛みがあった。
②発見迄の検査は、肺癌の時は3～6ヶ月毎にX線撮影をしていたが、胃癌の時は20年も検査していなかった。
③検査時の苦痛は、気管支ファイバーの方が苦しかったが、胃ファイバーでも吐気がついて少々苦しかった。
④手術時間は、いずれも約2時間程度でほぼ同じであり、割合早かった。
⑤術後の抜管、抜糸は肺癌の時は6～12日かかったが、胃癌では7～8日で終了した。
⑥絶食期間は、肺癌の時は3日目より重湯が出たが、胃癌の折は6日目に水分が出た。
⑦入院期間は、肺癌の時は約1ヶ月かかったが、胃癌の折は15日目に退院許可が出た。
⑧癌の種類は、肺癌は扁平上皮癌であり、胃の場合は腺癌であった。
⑨癌の進行度は、肺癌は早期Ⅰ期であったが、胃癌は進行癌Ⅱ型で筋層に達していた。
⑩リンパ節等他の臓器への転移は、肺癌、胃癌共になかった。
⑪癌の5年生存率は、色々の説や統計があるが私の症例の場合肺癌は50%、胃癌は83%と言われている。
⑫手術後の食欲については、肺癌の場合は全く変らなかったが、胃癌の場合は6ヶ月以上たっても少ししか食べられない。
⑬手術後の倦怠感、疲労感、眠むたい等の症状は、肺癌の場合は1年以上続いたが、胃癌の場合は6ヶ月位でやや軽減した。
⑭手術後の体の筋肉痛等については、肺癌の時には両手が挙上しにくく、左の下肢全体の筋肉痛が1年以上続いた。胃癌の折にはそのような筋肉痛はあまりなかった。
⑮手術後の脳神経症状については、肺癌の

時は術後1年位考えることがまとまらず、又考えることと体を動かすことがバラバラで物事に対する反応が鈍くなった。しかし胃癌の時にはそのような症状は全くなかった。

この二つの癌の経験を比較検討してみると、

(1)肺癌の場合は縷々検査していて、又右上胸部に痛みがあり早期に発見し、進行の遅い扁平上皮癌であったにも拘らず、手術後の色々の症状が治るのに1年以上も要した。しかし胃癌の場合は自覚症もなく20年も検査しておらず、進行の早い腺癌であったにも拘らず、術後の経過、後遺症は食事を除いて肺癌より遙かに軽微であった。

(2)これがもし逆であって、最初に初期の胃癌を早く発見してすぐに手術しておれば100%の完全治癒で終っていると思われる。しかしその後肺癌が遅く発見され、しかも腺癌の進行癌であったなら、他臓器への転移も充分あり得るので、手術不能か或は手術しても6ヶ月～1年位の寿命であったろうと思っております。

そのように考えると、私の場合は誠に不幸中の幸であり、憎まれっ子世にはびこる喩えではないが、誠に運良く死を免かれたのではないかと思います。もう少し寿命を頂いたので、この世の中に少しでも恩返しが出来ればと思い、周囲の人々に迷惑をかけないようお年寄り達の楽しい話相手になってあげられたらと考えている昨今です。

（平成11年6月27日記）

郡市医師会乳幼児保健担当理事協議会

平成11年6月24日㈭　（担当　梅　田　理　事）

「少子化に関する論点・課題と対応策の方向」
（山口県少子化問題調査検討委員会提言骨子）

平成11年6月
山口県少子化問題調査検討委員会

はじめに

現代の日本は、晩婚化の進行などを背景として出生率の低下とともに子どもの数が減り続け、少子化が急速に進んでいる。

このような状況の中、委員会は、少子化の進行が子どもたちの健やかな成長だけでなく社会経済のあり方、ひいては私たち一人ひとりの生活そのものに深刻な影響を与える重大な問題であるとの認識のもとに、県民の参加と共に考えるプロセスを大切にしながら、少子化の要因やその背景にまで踏み込んだ幅広い調査・検討を進めてきた。

委員会としては、急速な少子化の進行がもたらす深刻な影響を軽減するための対応が必要であると考えており、そのことは今を生きる我々の世代の21世紀を生きる世代への責任ではないかと考えている。

そして、少子化への対応を考えるに当たって、今後更に議論すべき論点・課題と対応策の方向を提言骨子としてとりまとめ、こ

こに提案する。

委員会では、今後も引き続き少子化への具体的な対応策を調査・検討することとしているが、本提言骨子をもとに全県的な議論がなされ、少子化への対応を県民一人ひとりが自分の問題として考えるとともに、委員会へ多くの意見・提言が寄せられることを期待する。

留意点

・結婚や出産は個人の価値観や生き方に関わるものであり、当事者の自由な選択に委ねられるものであることから、少子化への対応を考える場合に、結婚や出産をしない人、子どもを生みたくても生めない人などに対し、社会的な非難や圧力をかけるようなことがあってはならない。特に、妊娠・出産に関する個人の自己決定権を制約することがあってはならない。

少子化に関する論点・課題及び対応策の方向

・少子化への対応を考えるに当たって、家庭、学校、職場、地域の各分野にわたる少子化に関する論点・課題と対応策の方向を次の10のテーマに整理し提示する。

①若者の結婚に対する意識
②男性の家事・育児に対する意識
③結婚につながるような出会いの場づくり
④全ての子育て家庭に行き届くサービスの提供
⑤子育ての仲間づくり支援
⑥子育てに係る経済的な負担感と経済的な支援
⑦不妊や妊娠中・出産後の健康で悩む夫婦への支援
⑧育児休業や産前・産後休暇が必ず取得できる職場環境づくり
⑨多様な雇用形態、就業形態
⑩子どもの時からの家事や乳幼児とのふれあい体験

・また、今後検討を深めていく課題として次の3つのテーマを提示している。

①少子化の意識啓発
②子どもの立場に立った子育て支援
③若者定住

（講演冊子より抜粋）

郡市医師会成人・高齢者保健担当理事協議会

平成11年7月22日㈭　（担当　梅　田　理　事）

1．感染症新法及び発生時の対応について

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の説明（冊子p.3～34は目を通すこと。）

2．平成11年度がん検診の取組について

①精度管理及び評価の推進
　○精度管理向上に向けた検討
　○がん検診の精度評価の推進
　○がん検診の評価の推進
②情報提供による市町村支援
　○山口県健康診査市町村説明会・がん検診評価報告会の開催
　○市町村に対する支援活動の推進
③普及啓発活動の展開

7月度定例理事会

日時　平成11年7月14日p.m. 7：30～
場所　医師会事務局
議題
1．妊産婦乳幼児保健担当理事協議会報告
　少子化問題について　（梅田理事）
2．4～6月度決算書報告　（藤原理事）
3．納涼会予定
　7月29日(木)　p.m. 6：30～
　ニューシャンピア光　（松村理事）
4．介護認定審査会メンバー予定者
　（松村理事）

	Aチーム	Bチーム	Cチーム
委員長	藤村　朴	河内山　正	河村　康明
委　員	藤原　邦彦	佃　邦夫	矢富　克介
副委員長	光武　達夫	松村壽太郎	近藤　龍一
委　員	市川　晃	兼清　照久	吉村　明人

5．県医学会総会
　講師選定について

新　入　会　員

守友医院

守友 康則 先生

今回光医師会へ入会させて頂くことになり自己紹介させていただきます。

私は昭和58年に光高校を卒業しその後昭和大学医学部へ進学し平成3年より同第一内科入局し主に糖尿病、脂質代謝の勉強をさせていただきました。

もう少し大学に在籍し勉強させて頂く予定でしたが、今回急遽父の病気にて今年の4月に帰省しそのまま実家の診療所を継ぐことになりました。最初は大学とのギャップに戸惑うこともありましたが、最近では徐々になれてきて患者さんとのコミュニケーションも徐々にとれるようになってきました。また大学の専門外来と違い様々なジャンルの患者さんが来院され、プライマリーケアの大切さを感じています。まだまだ、若輩者であり、これから勉強しなければいけないことがたくさんあり、また皆様にご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが何卒宜しくお願い致します。

納　涼　懇　親　会

日時　平成11年7月29日
場所　ニューシャンピアひかり
天気　雨

心電図研究会（第131回）

日時　平成11年7月9日（p.m. 7：30～）
場所　光商工会館　2F
講師　河野　隆任　先生
司会　赤崎　信正　先生
症例　1．90才　女　呼吸困難
　　2．23才　女　失神発作
　　3．57才　女　胸内苦悶

平成11年度第1回光医師会ゴルフコンペ

日時　平成11年5月23日(日)
場所　周南C．C

順位	氏　名	out	in	total	Net	HD	新ハンデ
優勝	守田　忠正	51	41	92	83	9	7
準優勝	諏訪　高志	48	47	95	83	12	10
3位	光武　達夫	53	50	103	91	12	
4位	平田万三志	56	53	109	93	16	
5位	冬野幾々男	52	61	113	96	17	
6位	竹中　昭二	62	66	128	107	21	
7位	森本　博士	61	53	114	109	5	

D.C.　平田、守田
N.P.　諏訪、諏訪
B.G.　守田

平成11年度第2回光医師会ゴルフコンペ

日時　平成11年7月11日(日)
場所　周南C．C

順位	氏　名	out	in	total	Net	HD	新ハンデ
優勝	前田　昇一	51	44	95	81	14	11
準優勝	光武　達夫	45	49	94	82	12	10
3位	諏訪　高志	46	47	93	83	10	
4位	兼清　照久	48	47	95	84	11	
5位	守田　忠正	44	49	93	86	7	
6位	横山　宏	47	48	95	87	8	
7位	森本　博士	46	46	92	87	5	
8位	森本　茂樹	55	55	110	88	22	
9位	竹中　昭二	52	61	113	92	21	
10位	富恵　哲	54	62	116	93	23	
11位	松村寿太郎	62	50	112	93	19	
12位	冬野幾々男	53	62	115	98	17	

D.C.　冬野、横山
N.P.　光武、横山
B.G.　森本

IIIII あとがき IIIII

福本先生より原稿用紙15枚に及ぶ2回目の闘病記（症例報告？）をいただきました。2度に及ぶ壮絶な闘いが記されているのかと思いきや、比較的単々とした口調で、2種類の癌の比較検討や日記までも含まれており、科学的な構成をされて、頭の下がる想いがしました。私の知り得る範囲内ではほとんど臨床医としての生活かと推察していたのですが、研究員としての文章の様な気が致しました。これからもお元気で、私の編集期間のあいだに、3回目の投稿を是非お願いしたいと思います。（題材は疾病と関係ないもので。）

（河村）

発行所	光市医師会 TEL 0833 72−2234
発行者	近藤龍一
編集者	広報担当
印刷所	光市光井一丁目15番20号 中村印刷株式会社